

活動内容報告書

団体名		特定非営利活動法人子ども医療支援わらびの会
直近3か月	年 月 日	ファミリーハウス「がじゅまるの家」受託運営（2008年度～現在）
	2021年 6月 15日	がじゅまるの家だより25号の発行、発送
	2021年 4～6月 日	わらびの会事務局、及び、構成団体におけるピアサポート活動を行う。コロナ禍の為、病院での活動は自粛中だが、各団体の活動場所、事務局等にて個々で受け付ける。

ファミリー がじゅまるの家だより 25号

編集・発行 ファミリーハウス がじゅまるの家 特定NPO法人 子ども医療支援 わらびの会
901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川272-16
TEL (098) 888-0812 FAX (098) 979-6771
ホームページ: http://www.gajumaruonline.com
印刷 株式会社 国産印刷

「がじゅまるの家」と沖縄の特殊事情

公益財団法人 沖縄県保健医療福祉事業団 専務理事 金城 敦

はじめまして、私は、この4月に当事業団に異動してまいりました 金城 敦と申します。前職は 沖縄県企画部に所属し、10年に一度策定する沖縄振興計画に携わっていました。

昨年、新聞で話題になっている沖縄振興特別措置法の期限は今年度末までとなっています。どのように継続できるかが焦点で、今年度はまさに正念場の年にあたります。

国は沖縄振興特別措置法という法律に基づき、沖縄県の振興を行っています。この法律の立法の動機は、「沖縄の置かれた特殊事情」とされており、いくつかある特殊事情の一つに「広大な海域に離島が散在し本土から遠隔にあること等」の地理的事実があります。

離島県である沖縄において、病児がいる家族は医療費だけでなく、病院までの交通費や宿泊費など多くの費用がかかります。また、我が子の病状に対する心配、見知らぬ土地での滞在の不安など、その経済的、精神的な負担は計り知れないものがあります。これらの負担を軽減するため、当時、「わらびの会」の前身の団体が「子ども病院」設立と併せて、病院近くに病児と付添家族が滞在できる施設の設置を求め、「子ども医療センター」と「がじゅまるの家」を実現できたことは沖縄振興の面からも大変意義深いものだったと思います。その後も「子ども医療支援わらびの会」は「がじゅまるの家」の運営を受託し、病児とその家族に寄り添い、この施設を十分に機能させています。

がじゅまるの家に寄せられる「利用者の声」を拝見すると、胸が熱くなります。そこには、「がじゅまるの家」のスタッフに対する感謝の言葉が溢れています。これは、「わらびの会」の皆さんが施設の基本理念である「病児とその家族が心身ともに癒される滞在施設を目指す」ことを徹底して実践しているからだと思えます。

実は、4月1日に 沖縄県医師会館で理事長から辞令の交付を受けたのですが、その前にファミリーハウス「がじゅまるの家」を訪ねました。そこで、「わらびの会」の皆さんにお話しをお聞きする機会にも思われました。おかしなことに事業団に着任するより前に、がじゅまるの家を見学していたのです。「百聞は一見に如かず」これにより、当施設が単なる「病院近くの家族滞在施設」ではないことを容易に理解できました。

今後も、ファミリーハウス「がじゅまるの家」が利用される皆様に感謝され、頼りにされるよう、「わらびの会」をはじめとする関係者各位の支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人
沖縄県保健医療福祉事業団
Well-being Agency of Okinawa



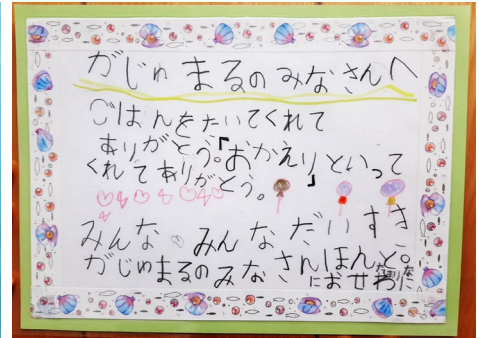
がじゅまるの家環境整備



こいのぼり掲揚



子ども達からのお手紙のプレゼント



ピアサポート活動は、病院の入館者規制のため、現在は、わらびの会に所属する17構成団体の事務所やオンラインで行っています。



がじゅまるの家だより25号

コメント

■ 昨年度より続くコロナ禍で、イベントなどの実施が難しく、感染予防の観点から主にオンラインでのシンポジウム・勉強会参加やピアサポート活動などを行いました。その他、ファミリーハウスがじゅまるの家の広報活動の為、「がじゅまるの家だより25号」を発行した他、「わらびの会だより16号」の発行準備を行っております。

当会の大きな事業の一つである「がじゅまるの家」は、県外や離島遠隔地から本島に医療を受けに来る病気や障がいを持つ子供と、そのご家族の為の滞在施設ですが、このコロナ禍においても閉鎖する事なく運営しております。

7月には事務局、がじゅまるの家スタッフ共にワクチン接種を済ませましたので、今後に予定している当会主催のイベントや、子ども達とご家族が安心して過ごすことの出来るハウスの環境づくりに尽力すると共に、スタッフがやりがいを持って働ける職場環境づくりに努めていきたいと存じます。